

令和5年度 第4回 在宅医療×介護連携@つちう Labo 参加者アンケート

- 日 時：令和5年12月21日（木）18時30分～20時30分
- 場 所：土浦市役所2階 男女共同研修センター 研修室1・2
- テーマ：急変時の救急対応 ～困難事例のケーススタディ～
- 出席者：49名（アンケート回答者数43名／回答率：87.7%）

1. あなたの年齢、職種を教えてください。

【年 齢】

	人数	割合
20代	6	14.0
30代	8	18.6
40代	12	27.9
50代	11	25.6
60代	6	14.0
70代以上	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	43	100.0

【職 種】

	人数	割合
介護支援専門員	12	27.9
介護職	7	16.3
薬剤師	6	14.0
看護師	4	9.3
社会福祉士	2	4.7
保健師	2	4.7
理学療法士	2	4.7
生活相談員	1	2.3
歯科医師	1	2.3
歯科衛生士	1	2.3
精神保健福祉士	1	2.3
訪問介護	1	2.3
作業療法士	1	2.3
その他	2	4.7
合計	43	100.0

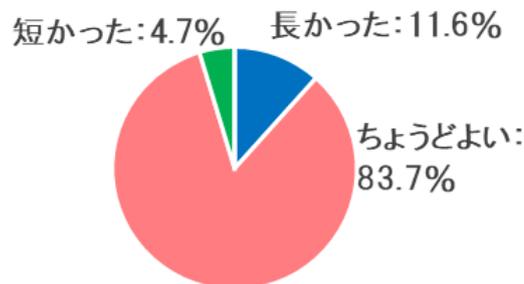
その他：施設長、福祉用具

2. 本日の研修会について

(1) 講演についてお伺いたします

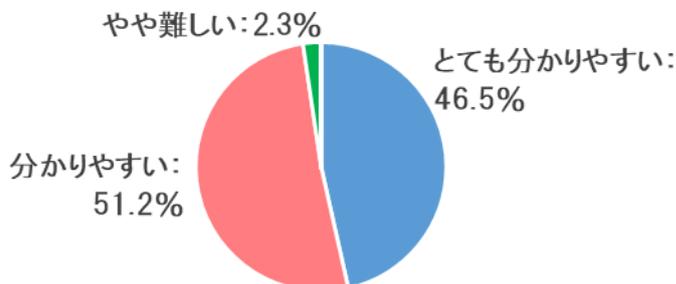
① 講演の時間は、いかがでしたか？

	人数	割合
長かった	5	11.6
ちょうどよい	36	83.7
短かった	2	4.7
無回答	0	0.0
合計	43	100.0



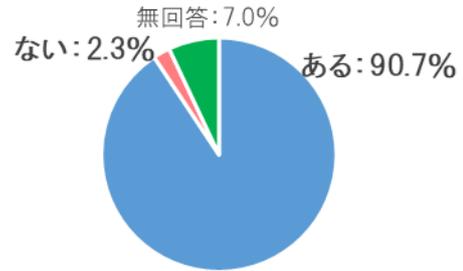
② 講演の内容は、いかがでしたか？

	人数	割合
とてもわかりやすい	20	46.5
わかりやすい	22	51.2
やや難しい	1	2.3
難しい	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	43	100.0



③本日の講演内容で、今後取り組もうと思った内容がありますか？

	人数	割合
ある	39	90.7
ない	1	2.3
無回答	3	7.0
合計	43	100.0



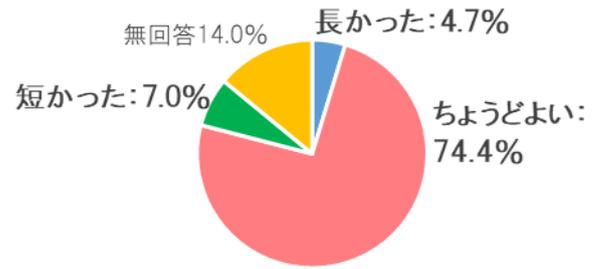
【「ある」と回答した方：具体的な内容】

- ・独居の高齢者の方やご家族へのツールの案内はできるかもしれないと思いました。
- ・キーパーソンの確認と本人の意志を事前に把握すること。有事の時のための情報整理が大切だと感じました。
- ・救急対応時、救急要請の時に適確な情報をお伝えできるように心がけたい。つちうら安心キットやみまもりキーホルダーなど適応の方にお声がけしていきたい。
- ・土浦市の急変対応時情報共有ツールの案内
- ・訪問リハでかかわる方に、もしもの時、誰に頼るか、どうするか話題に出して考えてもらうようにする。他職種にも共有する。
- ・みまもりキーホルダーの更新を声かけしていきたい。(お誕生日前後に声かけするつもりです)
- ・ACPについて知識を深めて実践していく。
- ・在宅訪問時に冷蔵庫にシールやマグネットが貼ってあった場合、内容の更新の確認。
- ・くらしをささえるおぼえがきの活用。ACP。
- ・終活。くらしをささえるおぼえがきの記入。家族と話し合い。
- ・土浦市の急変時対応・情報連携ツールの活用。
- ・ACPを実施していく。
- ・DNARやACPなどを利用者家族と共通認識を持ちたいと思う。
- ・安心キット等注意してみるようにする。
- ・ACP少しずつ。
- ・くらしをささえるおぼえがきを活用していきたい。
- ・はやめなACP確認。
- ・訪問時に手帳、安心キット等確認します。
- ・ACP、DNAR、その時々で意志が変わってしまう事が多い現状です。本当の終末期の方のみから、何気ない話からその時々で確認したいと思います。
- ・救急隊目線の意見が聞けたため、今後の要請時に注意していこうと思いました。
- ・ACPを義務化されると良いと思いました。
- ・案内のあったものを含め、ACPツールの活用。
- ・連携ツール。
- ・緊急時対応の見直しを行い、家族やケアマネと密に連絡を取り、状態をすぐに伝えられる記録を作る等、スムーズに行えるようにしたい。
- ・ACPについて日頃から話していこうと思いました。
- ・くらしをささえるおぼえがき、在宅ケア連携手帳の活用。
- ・ACPについて、今後積極的に家族と話し合う機会を設けるようにする。
- ・情報ツールを紹介しようと思います。
- ・急変時対応シート、情報連携ツールなどをすすめて、緊急時に使用できる状態にしていきたい。
- ・ACPについて、CM担当している方に話をふってみる。
- ・電子@連絡帳の活用。
- ・救急要請する際に必要な情報を意識しておく。
- ・情報共有の工夫。
- ・安心キットやらねば。ごめんなさい。
- ・意思表示は早めに話し合うことが大事という事。
- ・デイサービス利用者のACP確認。

(2) 意見交換会について、お伺いたします。

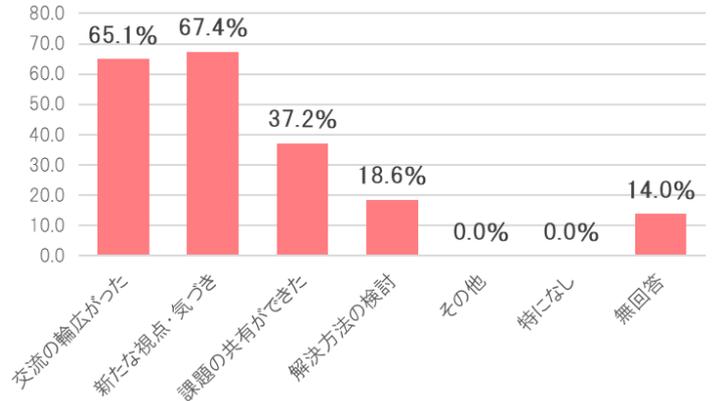
①意見交換会の時間は、いかがでしたか？

	人数	割合
長かった	2	4.7
ちょうどよい	32	74.4
短かった	3	7.0
無回答	6	14.0
合計	43	100.0



②本日の意見交換会では、どのような成果が得られましたか？

	人数	割合
交流の輪広がった	28	65.1
新たな視点・気づき	29	67.4
課題の共有ができた	16	37.2
解決方法の検討	8	18.6
その他	0	0.0
特になし	0	0.0
無回答	6	14.0



3. 急変時の円滑な対応のために、日ごろ実践していることや、課題に感じていることがあれば、教えてください。

【円滑な対応のために、実践していること その1】

- ・ 特になし。
- ・ 判断基準や共通認識を持てるような場を設置する。
- ・ 緊急連絡先、医師の連絡先の確認。本人や家族の思い、意志を日ごろから確認していく。
- ・ 急変を早期に判断できるよう細かく観察する。緊急時の連絡先を日頃から確認しておく。
- ・ 急変時対応シートの活用。
- ・ 緊急連絡先を複数人確保する。事業所内の情報共有。
- ・ 緊急時の連絡先の確保。病気や薬の確認。本人、家族の意志。
- ・ 緊急連絡先。主治医連絡先。
- ・ 救急対応シートの作成。
- ・ 歯科治療時のトラブルはすぐに TEL するようにする。
- ・ 救急情報キット、緊急通報システム、見守りキーホルダー、対象者にすすめている。ヘルプマークのキーホルダー。
- ・ 体調不良の予兆があれば、早めに家族に報告し、話し合う時間を作る。
- ・ 医療情報をできる範囲で更新するように心がけている。
- ・ 対応のマニュアル化。連絡先の作成、整理。
- ・ 情報をまとめている。
- ・ 日々の連絡事項の伝え方。状態の細かい記録。軽い特変でもすぐに伝えられるようにしている。(デイ⇒家族、デイ⇒ケアマネ)。利用中、看護師への確認等。
- ・ 安心キット、見守りキーホルダー。

【円滑な対応のために、実践していること その1】

- ・緊急連絡先を何カ所か聞いておく。
- ・ひとり暮らしの人に対し、見守りキーホルダー、安心キットを勧めてている。民生委員や近所の方とコミュニケーションをとるようにしている。
- ・新しい薬情報を安心キットに入れてもらうようにしている。
- ・服用薬剤の情報開示。在宅訪問時のケアマネジャーや看護師への情報共有。
- ・同事業所内での情報共有。
- ・必要時にためらわず救急要請すること。
- ・頭の中で常に想定して動けるようにしている。
- ・体調管理（バイタル）。起こりうることの想定をしておく。本人以外他県在住の家族と必ず面会しておく。ラインを遠方家族とつなぐ。

【課題に感じていること】

- ・土浦市の在宅ケア連携手帳の事を知らずにおりました。大切に使いやすいツールだと思うので活用できるようにしたい。
- ・ACPのタイミング、確認が難しい。急変は突然起きるので、土壇場で戸惑うことがある。
- ・Kp不在のケースは病院においても課題と考えています。日頃からKpをどうしていくか、問題に取り組めると良いと思いました。
- ・救急であるという判断に困る（軽症の場合、判断に時間がかかってしまう。気が動転してしまう）。
- ・情報等を整理して円滑に対応できるようにすること（事業所内での共有）。
- ・ACP。
- ・情報がない方の急変時。判断できる人がいない。
- ・ACPの把握。身元引受人等のいない方への緊急時の対応。
- ・ACPの早期の確認ができていない。
- ・訪問スタートした時点からケアマネや主治医は知ることができが、あまり交流することがないこと。
- ・親子2人暮らし、子供が未就業であり親とは離れられない⇒年金で生活している。介護に使えるお金が少なく、親子共に重い持病がある・・・が多く見られるようになった。
- ・意向聴取後の意向変更がある場合が多くなってきた。
- ・ACPについては理解はしているが、実践には至っていない。きっかけが作れない。
- ・急変時、スムーズに救急要請できる環境を整える。
- ・現場の職員に周知しきれない。
- ・新しい情報の直し。
- ・安心キットを作って冷蔵庫に入れたおいたが、救急隊にもっていかけてもらえないことが1度ありました。きっとシールが見えなかったのかと思います。
- ・緊急時に対応できる情報を一枚にまとめておこうと思った（安心キットの活用）
- ・閉じこもりがちの人へ見守りキーホルダー、安心キット、勧めるのが難しい。
- ・安心キットを持っている人を把握できない。
- ・在宅を行っている方しかケアマネとの情報共有ができていない。
- ・ACPやDNARについての情報が少ない。どのタイミングで誰に聞けばよいか明確でない。
- ・過去に家族がいない（仕事で連絡が取れず）ケアマネが対応せざるを得なかった。
- ・実際に動く（実動）となると、なかなか思うように動けない。
- ・近所の輪がない。家族同士も関係性が薄い。医師たちも（大きい病院もクリニックも）仲良く連携してほしい。

4. 今後、どのようなテーマの研修会や意見交換会を行ってみたいですか？

- ・退院調整について。法改正。
- ・看取りについて。
- ・参加者により、多くの意見を聞くことができて良かった。
- ・ACP、DNARの確認方法。
- ・災害支援について。福祉避難所の開設、タイミング。
- ・看取りについて勉強したい。
- ・BCP。土浦市で水害避難所。高齢者には現実的でない。現実的なものを作りたい。

5 最後に気づきの点や、ご感想などありましたら、自由にご記載ください。

- ・ 講義、準備からありがとうございます。
- ・ 安心キットや緊急通報システムなど、独居の方という条件がありますが、高齢者世帯（夫婦二人暮らし等）でも利用できるとより便利だと思いました。
- ・ ACP や DNAR のようなデリケートな問題に向き合う貴重な機会でした。ありがとうございました。
- ・ 研修開始時刻を 19 時にしていただけると助かります。
- ・ 色々な職種の話しが聞けて新たな発見もあり、とても良かったです。本日はお疲れさまでした。
- ・ つちう Labo はこれからも出席したい。
- ・ ありがとうございました。
- ・ 1 時間半くらいの研修会でもよいかも……。内容によっては 2 時間でも OK。
- ・ 今後もこのような研修会があれば参加したい。
- ・ ありがとうございました。毎回司会決めが楽しめます。
- ・ ありがとうございました。